

## 自 衛 消 防 訓 練 計 画 表 （記入例）

訓練種別	通報・消火・避難 救護・救出・放水	訓練日時	平成 年 月 日 ( ) 午前・午後 時 分	対象物名	○○○○○
本部指揮者	責任者氏名	○○ ○○	参加者名	所在地 TEL	大阪狭山市○○○丁目○—○
	防火管理者氏名	○○ ○○			
目的	火災発生時等の有事に自衛消防編成表による通報連絡・初期消火・避難誘導等の各隊員がスムーズに活動して、初期の目的である被害の軽減、人命損傷の未然防止に効果を揚げるために訓練を行う。				
実施要領	想定	火元及び延焼危険	火元は○○の台所とし、発見時、火は壁に沿って屋根裏に延焼する状況であり自衛消防隊の放水開始は、屋根裏 5 m <sup>2</sup> 延焼中である。 建物構造及び気象状況から延焼危険は、大である。		
		気象状況	気象状況は、南風 5 m、湿度 30%とする。		
		現示	火点は発煙筒、延焼範囲は赤旗、煙の範囲は黄色で現示する。		
	自衛消防隊員行動	自衛消防隊	自衛消防隊本部を事務所入口正面に設置し、自衛消防隊は所定の任務分担に基づき行動する。		
		発見通報	○○が発見し、大声で○○に知らせる。 同職場の責任者は直ちに電話、または伝令を持って自衛消防隊本部（防火管理者）へ通報させる。 自衛消防隊本部（防火管理者）は、直ちに電話 119 番通報をもって消防機関へ通報するとともにサイレン、拡声器等によって全域に通報する。		
		消火	○○係、○○係、○○係の消火班と指定されているものは、消火器を持って集まり、初期消火に当たる。		
		避難	避難は消防活動に関係あるものを除き、火災報知器により一斉に行うが拡声器による避難方向の指示に注意し、所定の場所に避難する。 避難にあたっては、火気に注意するとともに窓等は閉めること。 各職場の責任者は、直ちに持ち場を一巡し、また連呼する等により全員の避難を確認の上避難し、避難後は直ちに人員点呼を行い本部に連絡する。		
		消防隊の誘導及び連絡	消防隊到着後は、人命救助の要否、火気の燃焼状況、危険物の存否等の情報提供及び水利、若しくは火点進入口への誘導を行い、訓練進行に応じ消火状況の完了、その他危険性のない事等を連絡する。		
	記録	本部員は、火災発見、通報、避難完了、消防隊（自衛及び消防署）放水開始及び鎮火等の時間並びに消防活動の連否等を記録する。			
	講評	訓練終了後、○○前で責任者、消防署の講評を行う。			
摘要	消防活動は、筒先配置のみを行い、放水は別の場所で指示する。				
備考	本表は、訓練計画の一例を示したものであるが、個々の防火対象物の実態に応じ、重点を定めて訓練計画を樹立するものとする。				